

## V34a TAMA 300 観測の現状

辰巳 大輔 (国立天文台)、他 TAMA collaboration (京大基研、高工研、国立天文台、電通大、東大宇宙線研、東大新領域、東大地震研、東大理、阪大理、宮城教育大)

レーザー干渉計型重力波検出器 TAMA 300 は、2000年8月の160時間におよぶ観測実験後、24時間連続観測を実現するため防振装置の改良を行った。TAMA は世界最高感度を誇る検出器であるため、長期安定動作と感度の向上を両立することを目標に現在調整中である。さらに1999年以降の4回に及ぶ観測実験の経験を基に各種環境データによる検出器の動作状況のチェックシステムを整備し、24時間365日観測を継続するために必要な観測体制の確立を目指している。

今発表では、防振装置改良後に予定されている24時間連続運転による観測実験について報告する。